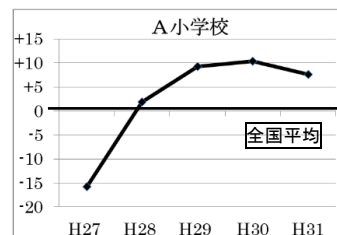


成果があった具体的な取組事例 〈小学校編〉

A小学校では、平成27年度に全国平均を下回ったものの、その後、上昇傾向に転じ、これまでの4年間、調査対象の学年が変わっても、毎年全国平均を上回る結果を維持することができています。

同校では、平成29年度から校内研修を充実させ、組織で学力向上を目指した取組を進めています。教職員の組織作りや児童の学力向上につながっていると考えられる校内研修について紹介します。



学力向上に効果的な校内研修の実現 ～教師の資質・能力の育成を目指して～

① 組織的に校内研修を行う体制の整備



Point 1
学力向上を推進するリーダーの存在

- 学力向上を目指した取組や研修を中心となって推進する担当者を校務分掌に位置づけた。
※ 担当者は県総合教育センターの長期研修の受講者（学びの還元）
- 学力向上推進委員会の設置

② 校内研修を機能させるための工夫



Point 2
内容に応じて柔軟に行うグループ編成

- 外部講師等（指導主事、大学教授等）を招いて研究授業や授業研究を行ったり、全職員で共通理解・共通認識を図ったりする全体研修
- 日常的に学年部等で互いに授業参観を行い、授業について語り合う小グループによる研修

③ 研修方法の改善

Point 3
・ 研修への参画意識の向上
・ 思考の可視化、操作化、構造化を図る研修

- ワークショップ型研修を導入した。
・ ウェビングマップの活用



④ 研修内容の具体

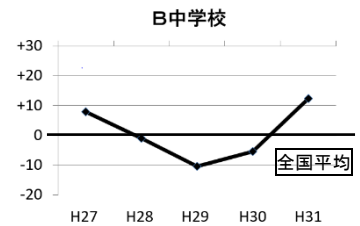
Point 4
深い学びの実現を目指した研修

- 全国学力・学習状況調査や鹿児島学習定着度調査について、「誤答分析」を行い、児童の間違いやその理由を基に授業改善を進めた。
- 課題解決的な研修の実際
 - ・ 課題解決的な学習を展開するための単元構成は？
 - ・ 言語活動の充実を確保するための学習過程は？



成果があった具体的な取組事例 〈中学校編〉

B中学校では、平成28、29年度と下降傾向にありましたが、平成29年度を境に上昇傾向に変わり、平成31年度では全国の平均を上回るようになりました。平成29年度から意識的に取り組んできたことの一つが、教師一人一人の授業力の向上でした。どのような取組をしたのか、平成30年度の取組を紹介します。



授業力の育成を目指した組織的な取組 ～生徒に力をつける授業を実現するために～

- ① 自校の生徒に育成する力を明確にし、全職員で共有することによって、授業改善に向けた意識の向上を図った。

本校の生徒に必要な力は・・・

- 文章を読んで問いに答える力
- 複数の資料やデータ等から分かることをまとめる力

Point 1
目標の明確化・共有化

- ② 国語科の模擬授業を通じた指導案検討を全職員で行い、「主体的・対話的で深い学び」のイメージを全職員で共有した。

生徒の立場で授業を受けてみたら・・・

- この授業展開で育成すべき力が身につくかな。
- 生徒の思考に即した発問や指示になっているかな。

Point 2
生徒の学びを主体にした授業作り

- ③ 国語科の研究授業を全職員で参観した後、ワークショップ型の授業研究を通して授業改善の方向性について確認した。

今日の授業を振り返って・・・

- 課題を生徒自らが切実な問いと捉えるための工夫が必要だ。
- 思考の変化を生徒が自覚する場面を設定することによって、学びはさらに深まる。

Point 3
教科の壁を越えた研究協議

- ④ かがしま学力向上支援Webシステムに掲載している問題（以下「Web問題」）に意図的・計画的に取り組んだ。

学んだことを活用して問題を解く力を育成したい・・・

- Web問題から学習課題を設定しよう。
- Web問題をアレンジして評価問題を作ろう。

Point 4
演習問題に取り組む場の設定

成果があった具体的な取組事例

<小学校・中学校共通>

多くの学校で、所管の教育委員会等から提供される「今週の1問」や「かごしま学力向上支援 Web システム」の問題に取り組んだことが、効果的だったという報告が届いています。ただし、単純に児童生徒に問題を解かせることが目的ではありませんし、そのような方法では効果は表れません。

そこで効果的な活用方法を紹介します。

かごしま学力向上支援 Web システムの掲載問題等の活用 ～児童生徒に「問題を解く力」をつけるために～



そもそもなぜ、かごしま学力向上支援 Web システムの掲載問題なの？

- 高校入試、大学入試・・・児童生徒はこれから多くの場面で思考力、判断力、表現力を問う問題を解くことが求められます。
- 必然的に、「思考力、判断力、表現力を問う問題を解く力」を身に付けさせていかねばなりません。
- 学力向上支援 Web システムには、思考力、判断力、表現力を問う問題が豊富に準備されています。

① 活用方法について学校内で共通理解を図る。

- 頻度、実施方法、実施後の指導（解説等）について、共通の目安やルールを設けた上で、実施計画を立てている。
- 取り組み状況を管理職が確認をしている。

Point 1
学校で組織的に
取り組む。

② 活用の具体例

- 授業中に学習課題として取り上げ、課題解決的な学習を展開することによって、授業改善を図っている。
- 章末や単元末に行う演習の時間に取り組みさせている。
- 家庭学習の課題にし、次時の授業の中で解説を行っている。
- 定期テストの問題に取り入れている。

Point 2
学校の実態に
応じて工夫する。

③ 効果的に活用するために

- 正答率の変化をチェックしながら、定着するまで、繰り返し、類題や同一問題を実施する。
- 「問題が解ける力を育む授業」への転換を図る。（授業の中に書かせる活動を積極的に取り入れるなど）
- 十分な解説の時間を確保する。（特に中学校）
- 児童生徒の能力、定着度に応じて出題する問題を選ぶ。（上位層には、より難易度の高い問題を）

Point 3
確実にやりきる。